

登録コード	UAB11600	開講年度	2026				
授業題目	比較言語文化AR					担当教員	磯部 美穂
						副担当	野津 寛・氏岡 真士・鎌田 隆行
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					人文学の基礎的な研究方法を習得し、それを基に発展的な分析・研究方法を実践することができるようになる。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					人文学研究から得られた知見を基盤とし、現代社会における様々な事象に対する問いをたて、解決方法を見出し、自らの言葉で広く社会に発信できるようになる。	
(2)授業の概要	受講生は、担当教員の講義を聴くと共に、自らも発表を行い、ディスカッションにより、専門領域と現在関心を抱いているテーマが現代社会との間にどのような関係を有しているかを考察すると共に、それらが、古代から現代に至る比較論的地平において、文化的・社会論的な発展過程のなかにどのように位置付けられるかを検討し、文学、言語、思想、社会等の多角的な視点から、実際のイベントを企画立案し、実現することを義務付けられる。イベント開催の終了後は、レポートにより発表する。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス（担当：磯部） 第2回：西欧語学研究と現代社会に関する講義（担当：磯部） 第3回：西欧語学研究と現代社会に関する学生発表（担当：磯部） 第4回：西欧語学研究と現代社会に関する多文化交流サロンの準備1（担当：磯部） 第5回：西欧語学研究と現代社会に関する多文化交流サロンの準備2（担当：磯部） 第6回：多文化交流サロン（担当：野津、鎌田、氏岡、磯部） 第7回：ユーラシアの漢字文化と現代社会に関する講義（担当：氏岡） 第8回：ユーラシアの漢字文化と現代社会に関する学生発表（担当：氏岡） 第9回：ユーラシアの漢字文化と現代社会に関する多文化交流サロンの準備1（担当：氏岡） 第10回：ユーラシアの漢字文化と現代社会に関する多文化交流サロンの準備2（担当：氏岡） 第11回：多文化交流サロン（担当：野津、鎌田、氏岡、磯部） 第12回：西洋古典文学と現代社会に関する講義（担当：野津） 第13回：西洋古典文学と現代社会に関する学生発表（担当：野津） 第14回：西洋古典文学と現代社会に関する多文化交流サロンの準備（担当：野津） 第15回：多文化交流サロン（担当：磯部） 期末試験は行わない。						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 「授業のねらい」で掲げた内容に関する取り組みの達成度を各授業回の際に担当教員が確認すると共に、多文化交流サロンイベント終了後のレポートを期末に課し、それによって評価を行なう。授業への取り組み方（50％）、レポート（50％） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】各々の研究領域における(1)問題の設定が適切に行われており、(2)その問題に関する問題が説明できており、(3)その問題解決に向けてどのような課題があるのかを十分に指摘できており、(4)それらの課題に関する解決法を適切に批判し、その問題点と課題を明確に把握できており、(5)その上で、自分自身の解決法の発見と提示ができ、実際のイベントが適切に運営できていること、（1）～（5）の諸点に加え、授業で学んだ複数の分野に関わる問題解決の事例が適切に参照されており、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】上記(1)から(5)までの5項目を満たしていいて、非常に高い水準にある。 【やや上にある】上記(1)から(4)までの4項目を満たしていいて、高い水準にある。 【その水準にある】上記(1)から(3)までの3項目を満たしていいて、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	個々の研究領域の担当者が各々の初回授業時に参考文献を提示すると共に、毎回の授業の最後に、予習・復習のための課題を課す。						
(7)履修上の注意	主たる担当教員は磯部が務めるが、副担当教員（野津・鎌田・氏岡）も協力して共同開講する。第2回以降の開講日時は教員と受講生で相談の上、設定する。						
(8)質問、相談への対応	授業中に質問を受けつける時間を十分に設けるとともに、オフィスアワーまたはアポイントメントによる面談で受講生からの質問に対応する。						
【教科書】	プリント等を配布して進める。						
【参考書】	三浦信孝・西山教行(編)『現代フランス社会を知るための62章』, 明石書店, 2010. 浜本隆志他(編・著)『現代ドイツを知るための67章』明石書店, 2020年. 中国モダニズム研究会(編)『中国現代文化14講』関西学院大学出版会, 2014年. L.D. Reynolds, N.G. Wilson (著), 西村賀子, 吉武純夫 (翻訳)『古典の継承者たち—ギリシア・ラテン語テキストの伝承にみる文化史』, 国文社, 1996.						

【参考書】	その他。、随時紹介する。
-------	--------------